

小児外科

はじめに

小児外科では新生児から中学生までのこどもに対し、こどもの特性に応じた外科治療を行う診療科です。では“こどもの特性”とはどのようなことでしょうか？こどものからだはおとなのように完成したものではなく、肺・腎臓・肝臓など身体のあらゆる臓器が発育の途中にあり機能が未熟です。また、身体の機能の調節のしかたも不十分で、発育に伴ってこれらの機能はどんどん変化してゆきます。このような子供の特徴を十分に知った上で手術前後の治療をしなければなりません。薬の使い方・点滴のしかたなどあらゆる面でおとなの常識は通用しません。このことが小児外科が独立した大きな理由です。

また身体の発育だけでなく、こどもは精神的・心理的にも発育の途上にあり、この点も十分に考慮しなければなりません。手術という、こどもにとっては大きな試練を無事に乗り切るための精神・心理的な援助に関しても小児外科医は考えています。

こどもについての専門的な知識を持った外科医、それが小児外科医であり、将来をにうこども達の外科治療を担当しています。

現在、多くの外科領域では臓器別診療の流れがあります。しかし小児外科では、こどもの頸部、心臓を除く胸部、腹部のほぼすべての外科的手術を必要とする病気を担当します。1000グラムにも満たない未熟児から思春期の中学生まで、また取り扱う疾患は消化器疾患、呼吸器疾患、泌尿器疾患、生殖器疾患、など多岐にわたります。よく言われる言葉ですが、こどもは大人のミニチュアではありません。同一の疾患でも患児によってその治療法の選択が異なることもしばしばであり、こどもの将来を見据えた、こどもの特性に応じた手術を選択するように心がけています。

【一般目標】

小児の外科的疾患に対して基本的診療を行いうる知識と技能を習得する。小児は成人のミニチュアではないので小児の身体的特徴をよく理解し、考えた上で研修することが大切である

【到達目標（行動目標）】

小児の外科的疾患に対して基本的な知識と技能を持ち、診療、手術、術前術後管理を行いうる能力を習得する。

日常的にカンファレンスの発表者となる。

- 1) 問題志向型システム・科学的根拠にもとづいた医療を実践することができる。
- 2) 診療記録とプレゼンテーションを正確に行うことができる。
- 3) 手術適応である理由、術前の評価を理解することができる。
- 4) 手術術式を口頭で述べることができる。
- 5) 手術の助手をつとめることができる
- 6) 術後管理の要点、今後の患児の経過を述べることができる

【注意事項】

- 月曜日は8:30に東病棟7階看護師詰め所に来て下さい。
- 診療チームに参加し、その一員として診療業務を担当するので、医師としてふさわしい態度と服装を心掛けて下さい。
- 欠席、遅刻する際には、必ず下記の緊急連絡先に連絡するようにしてください。

【実習の内容】

外来診療（新患及び再診）：小児外科外来患児の診療内容を理解する

病棟業務：術前術後管理、創傷処置、輸液管理棟を理解する

手術室：手洗いができ、術野から手術を観察し、解剖学的な理解をえる。

正しい手術手技を理解する。助手をつとめることができる。

【週間スケジュール】

週間予定表

		午 前		午 後	
		8 : 30		17 : 00	
月	回診	外来診療(新患患者)、検査(入院及び外来)		外来、病棟業務	回診
火	回診	手術(手洗い、助手)		手術(手洗い、助手)	回診
水	回診	外来診療(再診)		外来(新患)、カンファレンス	回診
木	回診	外来診療、病棟業務		手術(手洗い、助手)	回診
金	回診	外来診療(再診)、検査(入院及び外来)		外来診療(再診)、抄読会	回診

【評価】 (配点計は 100 点)

評価項目	配点
出席	40 点
知識・技能、手術手技	30 点
態度(挨拶、言葉使いなど含む)	20 点